

トリチウム（三重水素）の恐怖

（はじめに）

自民党では数少ない脱原発派の国会議員である河野太郎氏は、自身のブログに次のように書いている。「ALPSを通った汚染水は、依然としてここまで除去されないトリチウムに汚染されている。当初は、4,000,000 Bq/L ぐらいのトリチウムが含まれていたが、最近では 400,000 Bq/L ぐらいのトリチウムが含まれている。トリチウムの告示濃度限界は 60,000 Bq/L なのでそれを上回っている。トリチウムを除去することは難しいので、このトリチウム汚染水を告示濃度限界以下まで薄めて流したらどうかということは、規制委員会も言っている。」

福島第1原発事故に至るまでの東京電力をはじめ、原子力ムラに所属する人たちの仕事の仕方はひどいものがあったが（だから過酷事故となった）、原発事故後の後始末・事故原発への対処の仕方も、これまた出鱈目の限りを尽くしている。その最たるものの一つが、福島第1原発であふれ返っている放射能汚染水の問題である。日々、数百トンの放射能汚染水が出て、それを貯蔵タンクに溜めこんで行くため、今や原発敷地は汚染水基地のようになってしまっている。しかも、この汚染水処理の問題については先行きが全く不透明で、解決する兆しも方向性も見えてこないから非常に悩ましい。東京電力も原子力規制委員会・規制庁も政府も、そろそろ汚染水のタンク貯蔵をやめて、放射能濃度を薄めて海へ捨ててしまいたいのが本音のようで、中でも田中俊一原子力規制委員長などは、事故原発処理のあり方を規制する立場にあることも忘れて、さっさと薄めて捨ててしまえ、などとたびたび発言をして物議をかもししている。

ところで、汚染水を汚す放射能の中でも、今最も注目されているのが、このレポートで話題にするトリチウムである。下記では、トリチウムに関する基本的な知識と、この放射性物質がどのような危険性と特性を持っているかを、ごく簡単に整理してお示ししたいと思う。そして、実は、この「トリチウム問題」は、何も福島第1原発に限らず、日本全国の原発・核燃料施設、とりわけ加圧水型原発や青森県六ヶ所村再処理工場（あるいは東海村の再処理工場）でも深刻な汚染源となっていることをみなさまに知っていただきたいと思う次第である。特に、青森県六ヶ所村再処理工場は、下記に見るように、桁違いのトリチウムを含む放射性物質を大気中に、海に大量放出する最悪の核施設であることを強調しておきたい（下記の「公開質問状御」参照）。

そもそも原発にしる核施設にしる、当初は放射性物質で環境を深刻に汚すことはない、との触れ込みでスタートさせた事業ではなかったか。それが事業開始後数十年を経て、今や放射性物質を排出する際の「濃度」さえクリアしていれば、どれほど環境を汚染してもかまわない＝排出する放射性物質については量的に規制することなく無尽蔵に環境に捨ててしまっていていい、などという出鱈目な状態に「弛緩」してしまっている。放射性物質の長期的な生物や人間に対する危険性を考慮すれば、これほど乱暴で愚かなことはないのではないか。こんなことなら、原子力や核の利用などは、きっぱりとやめてしまえばいいだけの話である。エネルギーを得るための手段など、他にたくさんの代替策が存在し、原発・原子力などなくても何の支障もない。

(参考1)「三陸の海を放射能から守る岩手の会」他9団体の対政府公開質問状から一部抜粋

.....

福島原発事故による地下水パイパスによる排水について、東電は福島県漁連と協定を取り交わしトリチウム濃度の上限を1500Bq/Lとし海洋放出の了解を得た。しかるに、JNFL(*注)はアクティブ試験において、1億7千万Bq/Lと地下水パイパス協定値の約11万倍もの濃度のトリチウムを含む排水を2007年10月2日585m³、同年11月17日586m³海洋へ放出した。同じ国の同じ海域へのトリチウム放出であるにもかかわらず、JNFLへの濃度規制が野放しにされている理由は何なのか。本格操業になれば一日おきにこの極端に高濃度のトリチウム汚染水が海洋放出されると想定される。これでは海が死んでしまう。かけがえのない海を放射能汚染から守るため、少なくとも原発並(トリチウム:6万ベクレル/L)の放出濃度規制を定めて指導を強化するのが当然ではないか。また、福島県漁連同様、放出水の海洋下流で操業している下北・三陸沿岸漁業者の意見を聴取し放出濃度規制を設定することが求められるが、見解とその理由を示されたい。

.....

*注:「JNFL」=日本原燃(株)

●三陸の海・下北の大地を放射能から守ろう

<http://sanriku.my.coocan.jp/>

(参考2)たねまきJ「六ヶ所村再処理工場・恐るべき再処理の実態」小出裕章氏(内容書き出し・参考あり)7-19 - みんな楽しくHappy♡がいい♪

<http://kiikochan.blog136.fc2.com/blog-entry-2137.html>

このサイトにあるさまざまな放射性物質の大気中、及び海への放出量をご覧下さい。再処理工場は、まったく何の事故も起こしていなくても、気の遠くなるような量の放射性物質を環境に放出する。それはまるで、毎日が福島第1原発事故のような様相だ。こんなことを続ければ、三陸の海はもちろんのこと、広く東日本の太平洋沿岸や沖合は「死の海」となり、また、青森県をはじめ北東北や北海道の南部も、放射性物質を含む大気により次第に汚染されて行くことになってしまうだろう。もちろんトリチウムも、そうした危険な放出放射性物質の中で大きな割合を占めている。

<一部抜粋>

千葉:六ヶ所再処理工場から放出される放射能の量を調べてみて驚いております。なんと、年間で大気中にクリプトン85というのが、33京ベクレル。トリチウム、炭素、ヨウ素、セシウムなどなどが出ていますと推定されております。これらの放出量は生物に対して何の影響もないのでしょうか?

小出:もちろん影響はあります。ありますけれども、クリプトン85、炭素14、トリチウムというような放射性物質は、捕捉しようとするとなかなか手間がかかるというそういう放射性物質でして、六ヶ所再処理工場はそれらを何の手だても取らずに全量放出するとしています。ですから大量に出てしまうということになっているのです。で、今ご指摘がありましたけれども33京ベクレルという量を六ヶ所再処理工場は出すと言っています。